

医学部における初年次教育の改善とその評価

Improvement and Evaluation of First Year Medical Students Program

浅田 義和, 渥美 一弥

Yoshikazu ASADA, Kazuya ATSUMI

自治医科大学

Jichi Medical University

＜あらまし＞ 医学部における初年次教育として自治医科大学医学部にて実施されている「医学部入門」について、2015年度の課題を元に改善した内容および実践結果・今後の課題について報告する。前年度の課題として掲げられていた「医学に関わる問題を多く扱って欲しい」という意見を参考に、シミュレーションや医療安全などを取り入れた。学生の声としては肯定的な意見も多かったが、情報リテラシーやロジカルシンキングなど、やや時間的に間延びしてしまった項目も見られた。更なる改善案として、スタディスキルの実践、小グループでのシミュレーション導入などが考えられる。

＜キーワード＞ 初年次教育, インストラクショナルデザイン, 大学教育, 医学教育, 授業改善

1. はじめに

大学における初年次教育は多くの大学で導入されてきているが（初年次教育学会 2013）、その設計および実践においては、その大学および学部の特色を加味した設計が必要である。2015 年度に報告した医学部での初年次教育事例では、授業単体における進め方・構成について概ね好印象であったものの、全 14 回（2 コマ × 7 週間）の配分や扱ったテーマに関しては改善案が学生アンケートによって得られていた（浅田 2015a, 2015b）。これはカーカパトリックの 4 段階評価においてはレベル 1（反応）の段階が未達成であったと考えることができる。2015 年度に行った全 14 回の授業内容を表 1 に示す。

表 1 各回の授業内容

回	項目
1	ガイダンス / 高校との違い
2	ノートの取り方
3,4	ソーシャルスキルトレーニング
5,6	情報リテラシー
7,8	コミュニケーション
9,10	模擬レポートの採点
11,12	コンセンサスゲーム
13	数年後の自分（今後の目標）
14	学習意欲 / 国家試験の紹介

今回、2015 年度の授業実践において改善点と

して掲げられた点を再設計し、2016 年度の授業実践および評価を行った結果を報告する。

2. 方法

本科目の学習目標は以下の 4 点である。また、2015 年度のアンケート結果を表 2 に示す。

1. アカデミックスキルについて学び、今後の学習に必要な基礎技術を学ぶ
2. 大学生活への円滑な導入のため、本学学生に求められるソーシャルスキルを学ぶ
3. コミュニケーションの場でのスキルを練習として実践し、体得の手がかりを得る
4. 本学学生に求められる種々の社会的規範について確認し、適切な言動につなげる

表 2 2015 年度のアンケートからみる改善点

大分類	具体例
肯定的	「国家試験など、医学部の実態について学べた」 「レポートの書き方や採点者の視点を知ることができた」
	「医学部であることを実感できる内容を加えて欲しい」
要素の追加	「一部、内容が似通っていた」 「（全寮制で既に学生間の関係性が築かれており）アイスブレークやコミュニケーションは役に立たなかった」
	「（全寮制で既に学生間の関係性が築かれており）アイスブレークやコミュニケーションは役に立たなかった」
否定的	「（全寮制で既に学生間の関係性が築かれており）アイスブレークやコミュニケーションは役に立たなかった」

これらの背景を元に、2016年度は以下のような改善を行った。

- 学習者のコンピテンシー例として Online Learner Competencies (Beaudoin 2013)を紹介し、学生が自分自身の学習に活かせるようディスカッションの時間を設けた。
- コミュニケーションの内容を整理し、代わりに心肺蘇生を扱う授業時間を設け、アカデミックスキルとの関連付けを行った。
- コミュニケーションは医療に特化し、医療現場におけるコミュニケーション技術の紹介、およびそれが原因で発生した医療事故事例に関するディスカッションを行った。
- レポートの作成と関連し、論理的な思考および議論展開を行うためにロジカルシンキングのテーマを扱うこととした。

改善の意見は学習目標の3つ目であるコミュニケーションに関するものが多くみられたため、この部分について重点的な改善を試みた。表3は2016年度の実施スケジュールである。

表3 2016年度の項目およびアンケート結果

週	項目	満足度
1	ガイダンス、スタディスキル、 学習者のコンピテンシー	52%
2	シミュレーション体験（心肺蘇生）	61%
3	ロジカルシンキング	24%
4	模擬レポートの採点	30%
5	情報リテラシー	36%
6	医療分野でのコミュニケーション および医療安全	70%
7	全体のまとめ	12%

3. 結果

最終回の授業後にアンケートを実施し、その中でどの回の授業が有用を感じたか、多肢選択（複数回答あり）での質問を行った。表3の最右列は有用と答えた学生の割合である。

4. 考察

2016年度では学習者のコンピテンシーを新たに扱っており、他の授業を通じてその必要性を実

感できたという意見も得られた。一方、レポート採点やノートの取り方は、先輩の例などの具体例を見てみたいという声もあった。

新たに追加した項目は有用との意見が多かった。シミュレーションについては「選択科目で取れなかったので嬉しかった」「他の内容もやってみたい」という肯定的な意見も得られた。医療安全をテーマとしたコミュニケーションも含め、専門的な内容を1年生の立場で早期体験し今後の学びにつなぐ形式は有用であったといえる。

5. 次年度に向けた課題

100人以上が受講する必修科目であり、特にシミュレーションについて手技や回数を増やすには小グループでの分割実施などが必要である。

評価の低かったロジカルシンキングや情報リテラシーでは時間が間延びしてしまった部分もあり、更なる改善・統合の余地がある。

スタディスキルでは具体例を増やし、さらにはお互いに実践する場面を加えられる改善が考えられる。これはメリルのID第一原理 (Merrill 2013)における「Show me」および「Let me」の時間を取り入れることにつながる。

また、シミュレーション体験など一部の枠では択一問題やチェックリストを用いてのピア評価を導入したが、これをさらに拡大し、授業で扱った内容の学習定着度（4段階評価のレベル2）を検証できるようにすることも課題である。

前述のように本科目は4つの目標が提示されているが、個別目標ごとに評価方法が定義されていない。2017年度以降の課題として、特に評価方法に関する見直しを行うことも必要と考える。

参考文献

- 初年次教育学会(2013) 初年次教育の現状と未来.
世界思想社, 京都
- 浅田義和,渥美一弥(2015a) 医学部における初年次教育の実践および改善検討.日本教育工学会第31回全国大会講演論文集, pp.143-144.
- 浅田義和(2015b) 医学部初年次教育における「大学での主体的な学び方」支援. 日本教育工学会研究報告集 15(4), 119-122.
- Beaudoin, M., Kurtz, G., Jung, I., et.al.(2013). Online Learner Competencies. Information Age Pub Inc.
- Merrill, M. D. (2013). First Principles of Instruction. Pfeiffer.